

# 四半期報告書

(第94期第2四半期)

自 2020年7月1日

至 2020年9月30日

**三菱瓦斯化学株式会社**

東京都千代田区丸の内二丁目5番2号

表紙

## 第一部 企業情報

## 第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	4
2 事業の内容	5

## 第2 事業の状況

1 事業等のリスク	5
2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	5
3 経営上の重要な契約等	7

## 第3 提出会社の状況

## 1 株式等の状況

(1) 株式の総数等	8
(2) 新株予約権等の状況	8
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	8
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	8
(5) 大株主の状況	9
(6) 議決権の状況	11

2 役員の状況	11
---------	----

## 第4 経理の状況 12

## 1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表	13
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	15
四半期連結損益計算書	15
四半期連結包括利益計算書	16
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	17

2 その他	24
-------	----

## 第二部 提出会社の保証会社等の情報 25

[四半期レビュー報告書]

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年11月9日
【四半期会計期間】	第94期第2四半期（自 2020年7月1日 至 2020年9月30日）
【会社名】	三菱瓦斯化学株式会社
【英訳名】	MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 藤井 政志
【本店の所在の場所】	東京都千代田区丸の内二丁目5番2号
【電話番号】	(03) 3283-5080
【事務連絡者氏名】	財務経理部経理グループ グループマネージャー 小林 千果
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区丸の内二丁目5番2号
【電話番号】	(03) 3283-5080
【事務連絡者氏名】	財務経理部経理グループ グループマネージャー 小林 千果
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次		第93期 第2四半期連結 累計期間	第94期 第2四半期連結 累計期間	第93期
会計期間		自 2019年 4月1日 至 2019年 9月30日	自 2020年 4月1日 至 2020年 9月30日	自 2019年 4月1日 至 2020年 3月31日
売上高	(百万円)	303,369	266,637	613,344
経常利益	(百万円)	11,690	16,541	31,116
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益	(百万円)	8,147	14,255	21,158
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	5,350	16,454	13,988
純資産額	(百万円)	550,782	556,225	548,141
総資産額	(百万円)	771,361	782,563	771,733
1株当たり四半期(当期)純利 益金額	(円)	38.45	68.54	100.50
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額	(円)	—	—	—
自己資本比率	(%)	64.53	64.06	63.82
営業活動によるキャッシュ・フ ロー	(百万円)	38,663	33,075	74,234
投資活動によるキャッシュ・フ ロー	(百万円)	△21,911	△16,546	△33,922
財務活動によるキャッシュ・フ ロー	(百万円)	△23,592	14,805	△49,563
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高	(百万円)	71,947	100,097	70,043

回次		第93期 第2四半期連結 会計期間	第94期 第2四半期連結 会計期間
会計期間		自 2019年 7月1日 至 2019年 9月30日	自 2020年 7月1日 至 2020年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	21.62	35.69

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

主要な関係会社における異動につきましては、以下のとおりであります。

- ・2020年9月1日付で、当社の連結子会社でありましたMGC MONTNEY HOLDINGS LTD.を解散・清算いたしました。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### （1）経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間（2020年4月1日～2020年9月30日）における世界経済は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響により、経済活動が抑制され、厳しい状況で推移いたしました。日本経済も、経済活動レベルの引き上げに伴い、足元の景気動向には持ち直しの動きがみられるものの、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループを取り巻く事業環境は、半導体向け製品や光学樹脂ポリマーの需要が堅調であったものの、新型コロナウイルスの影響で自動車関連製品を中心に需要が減退したほか、メタノール、ポリカーボネートおよび高純度イソフタル酸等の汎用製品の市況も低水準で推移いたしました。

当社グループの売上高は、芳香族化学品、発泡プラスチックおよびエンジニアリングプラスチックの販売数量減少に加え、汎用製品の市況下落の影響が大きく、減収となりました。

営業利益は、光学樹脂ポリマーおよび半導体向け製品の販売数量増加に加え、原燃料安や、販売費及び一般管理費の減少などの増益要因があったものの、芳香族化学品、発泡プラスチックおよびエンジニアリングプラスチックの販売数量減少や、汎用製品の市況下落などにより、減益となりました。

経常利益は、営業利益が減少したものの、前年同期に計上したサウジアラビア合弁事業での一過性費用(78億円)の剥落により海外メタノール生産会社の持分法損益が改善したことなどから、増益となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、経常利益の増加に加え、税金費用が減少したことなどにより、大幅な増益となりました。

以上の結果、売上高2,666億円（前年同期比367億円減（12.1%減））、営業利益143億円（前年同期比16億円減（10.4%減））、持分法利益17億円（前年同期比55億円改善）、経常利益165億円（前年同期比48億円増（41.5%増））、親会社株主に帰属する四半期純利益142億円（前年同期比61億円増（75.0%増））となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

なお、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同期比較においては、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

#### 〔基礎化学品〕

メタノールは、市況が前年同期に比べ下落したことなどから、減収となりました。

メタノール・アンモニア系化学品は、原料価格の低下があったものの、MMA系製品の市況下落に加え、修繕費の増加などもあり、減益となりました。

特殊芳香族化学品は、芳香族アルデヒドの販売が堅調に推移したものの、住宅関連用途を中心にメタキシレンジアミンの需要が減少したことなどから、減益となりました。

汎用芳香族化学品は、原燃料安があったものの、高純度イソフタル酸およびメタキシレンの販売数量減少・販売価格下落などにより、減収減益となりました。

発泡プラスチック事業は、食品・土木分野での需要増加などがあったものの、自動車分野での需要減少や都市封鎖に伴う生産活動への影響などから、減収減益となりました。

以上の結果、売上高1,376億円（前年同期比405億円減（22.8%減））、営業利益4億円（前年同期比66億円減（93.1%減））、経常利益15億円（前年同期比6億円増（65.0%増））となりました。

#### 〔機能化学品〕

無機化学品は、半導体向け薬液の販売数量が増加したことなどから、前年同期を上回る損益となりました。

エンジニアリングプラスチックは、自動車向けを中心に需要が減退したことに加え、ポリカーボネートの市況が前年同期に比べ下落したことなどから、減収減益となりました。

光学材料は、スマートフォン用カメラレンズの複眼化の進展や昨年10月の生産能力増強により光学樹脂ポリマーの販売数量が増加したことなどから、増収増益となりました。

電子材料は、データセンターなどのICT関連需要の高まりや、5G対応スマートフォン用アンテナ・イン・パッケージ基板向けの立ち上がりなどにより、主力の半導体パッケージ用BT材料の販売数量が増加したことなどから、増収増益となりました。

「エージレス®」等の脱酸素剤は、土産などの観光需要が減少したものの、輸出が堅調に推移したことなどから、前年同期並みの損益となりました。

以上の結果、売上高1,238億円（前年同期比9億円減（0.8%減））、営業利益153億円（前年同期比52億円増（52.0%増））、経常利益159億円（前年同期比41億円増（35.3%増））となりました。

#### 〔その他の事業〕

その他の事業の売上高は52億円（前年同期比48億円増（1,301.0%増））、営業損失は7億円（前年同期比7億円悪化）、経常損失は5億円（前年同期比5億円悪化）となりました。

#### （2）財政状態の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて108億円増加の7,825億円となりました。

流動資産は、76億円増加の3,663億円となりました。増加の要因は、現金及び預金の増加などです。

固定資産は、31億円増加の4,162億円となりました。増加の要因は、投資有価証券の増加などです。

負債は、27億円増加の2,263億円となりました。流動負債は、支払手形及び買掛金の減少などにより148億円減少しました。固定負債は、社債の増加などにより175億円増加しました。

純資産は、80億円増加の5,562億円となりました。増加の要因は、利益剰余金の増加などです。

この結果、自己資本比率は64.1%となりました。

#### （3）キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物は、前年同期比で281億円増加し、1,000億円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

##### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間は、前年同期比で55億円収入が減少し、330億円の収入となりました。減少の要因は、持分法適用会社からの配当金の受取額の減少などです。

##### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間は、前年同期比で53億円支出が減少し、165億円の支出となりました。減少の要因は、固定資産の取得による支出の減少などです。

##### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間は、前年同期比で383億円増加し、148億円の収入となりました。増加の要因は、社債の発行による収入などです。

#### （4）会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

#### （5）優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、9,872百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	492,428,000
計	492,428,000

###### ②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2020年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2020年11月9日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	225,739,199	225,739,199	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	225,739,199	225,739,199	—	—

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### ①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### ②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数(株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額(百万円)	資本金残高(百万円)	資本準備金増減額(百万円)	資本準備金残高(百万円)
2020年7月1日～ 2020年9月30日	—	225,739,199	—	41,970	—	35,668

## (5) 【大株主の状況】

2020年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	18,067	8.69
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海1-8-12	10,951	5.26
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2-1-1	8,797	4.23
日本生命保険相互会社	大阪府大阪市中央区今橋3-5-12	8,795	4.23
農林中央金庫	東京都千代田区有楽町1-13-2	5,026	2.42
AGC株式会社	東京都千代田区丸の内1-5-1	4,835	2.32
株式会社日本カストディ銀行(信託口5)	東京都中央区晴海1-8-12	3,799	1.83
株式会社横浜銀行	神奈川県横浜市西区みなとみらい3-1-1	3,085	1.48
JP MORGAN CHASE BANK 385781 (常任代理人 株式会社みずほ銀行)	25 BANK STREET, CANARY WHARF, LONDON, E145JP, UNITED KINGDOM (東京都港区港南2-15-1 品川インターシ ティA棟)	2,995	1.44
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	2,700	1.30
計	—	69,055	33.20

(注) 1. 上記のほか、当社が保有する自己株式数 17,724千株

2. 2020年6月19日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、2020年6月15日現在でそれぞれ以下の株式を保有している旨が記載されているものの、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、その大量保有報告書の内容は次のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
ブラックロック・ジャパン株式会社	東京都千代田区丸の内1-8-3	2,167	0.96
ブラックロック・ファンド・マネジャーズ・リミテッド (BlackRock Fund Managers Limited)	英国 ロンドン市 スログモートン・アベニュー 12	256	0.11
ブラックロック・アセット・マネジメント・アイルランド・リミテッド (BlackRock Asset Management Ireland Limited)	アイルランド共和国 ダブリン ボールスブリッジ ボールスブリッジパーク2 1階	684	0.30
ブラックロック・ファンド・アドバイザーズ (BlackRock Fund Advisors)	米国 カリフォルニア州 サンフランシスコ市 ハワード・ストリート 400	2,102	0.93
ブラックロック・インスティテューショナル・トラスト・カンパニー、エヌ・エイ。(BlackRock Institutional Trust Company, N.A.)	米国 カリフォルニア州 サンフランシスコ市 ハワード・ストリート 400	2,588	1.15
ブラックロック・インベストメント・マネジメント(ユーケー)・リミテッド (BlackRock Investment Management (UK) Limited)	英国 ロンドン市 スログモートン・アベニュー 12	965	0.43

3. 2020年9月7日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、2020年8月31日現在でそれぞれ以下の株式を保有している旨が記載されているものの、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、その大量保有報告書の内容は次のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1-5-5	1,771	0.78
アセットマネジメントOne株式会社	東京都千代田区丸の内1-8-2	12,008	5.32
アセットマネジメントOneインターナショナル (Asset Management One International Ltd.)	Mizuho House, 30 Old Bailey, London, EC4M 7AU, UK	270	0.12

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2020年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 17,798,000	—	単元株式数 100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 207,705,900	2,077,059	同上
単元未満株式	普通株式 235,299	—	一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	225,739,199	—	—
総株主の議決権	—	2,077,059	—

(注) 1. 「単元未満株式」には、次の自己株式及び相互保有株式が含まれております。

自己株式54株、山田化成㈱5株

2. 「完全議決権株式(その他)」には、株式会社証券保管振替機構名義の株式500株(議決権の数5個)が含まれております。

② 【自己株式等】

2020年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
当社	東京都千代田区丸の内2-5-2	17,724,500	—	17,724,500	7.85
山田化成㈱	東京都千代田区内神田2-8-4	70,500	—	70,500	0.03
菱江ロジスティクス㈱	大阪府豊中市神州町2-81	3,000	—	3,000	0.00
計	—	17,798,000	—	17,798,000	7.88

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、東陽監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	78,227	111,471
受取手形及び売掛金	141,279	120,638
有価証券	3,514	9
商品及び製品	62,359	62,076
仕掛品	13,154	13,661
原材料及び貯蔵品	39,282	39,882
その他	21,975	19,250
貸倒引当金	△1,124	△690
流動資産合計	358,669	366,300
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	84,339	88,793
機械装置及び運搬具（純額）	81,079	78,962
その他（純額）	74,419	71,105
有形固定資産合計	239,838	238,861
無形固定資産		
のれん	5,293	5,104
その他	5,303	5,114
無形固定資産合計	10,597	10,219
投資その他の資産		
投資有価証券	149,158	152,358
その他	14,111	15,379
貸倒引当金	△640	△556
投資その他の資産合計	162,628	167,182
固定資産合計	413,063	416,262
資産合計	771,733	782,563

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	70,776	60,391
短期借入金	33,980	38,678
1年内償還予定の社債	10,000	10,000
未払法人税等	5,539	3,041
引当金	6,003	6,240
その他	37,275	30,414
流動負債合計	163,574	148,766
固定負債		
社債	—	20,000
長期借入金	29,043	27,286
引当金	3,527	1,760
退職給付に係る負債	9,333	9,515
資産除去債務	3,560	3,581
その他	14,552	15,428
固定負債合計	60,016	77,571
負債合計	223,591	226,338
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	41,970	41,970
資本剰余金	34,234	34,336
利益剰余金	439,701	446,678
自己株式	△21,600	△21,558
株主資本合計	494,306	501,425
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,789	10,104
繰延ヘッジ損益	4	△0
為替換算調整勘定	△6,701	△7,426
退職給付に係る調整累計額	△2,877	△2,784
その他の包括利益累計額合計	△1,785	△105
非支配株主持分	55,619	54,904
純資産合計	548,141	556,225
負債純資産合計	771,733	782,563

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
売上高	303,369	266,637
売上原価	239,632	206,378
売上総利益	63,737	60,258
販売費及び一般管理費	※1 47,702	※1 45,888
営業利益	16,034	14,370
営業外収益		
受取利息	291	177
受取配当金	1,646	1,843
持分法による投資利益	—	1,702
その他	2,178	1,554
営業外収益合計	4,116	5,277
営業外費用		
支払利息	473	389
出向者労務費差額負担	804	751
賃貸費用	764	666
持分法による投資損失	3,865	—
その他	2,553	1,297
営業外費用合計	8,460	3,105
経常利益	11,690	16,541
特別利益		
投資有価証券売却益	1,501	1,279
固定資産売却益	—	※2 257
段階取得に係る差益	※3 1,016	—
受取保険金	※4 564	—
特別利益合計	3,082	1,536
特別損失		
損害補償損失	—	308
事故関連損失	※5 187	—
固定資産処分損	※6 174	—
特別損失合計	362	308
税金等調整前四半期純利益	14,411	17,770
法人税等	4,508	2,347
四半期純利益	9,902	15,423
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,754	1,167
親会社株主に帰属する四半期純利益	8,147	14,255

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益	9,902	15,423
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,796	2,407
繰延ヘッジ損益	△3	△5
為替換算調整勘定	△3,858	△742
退職給付に係る調整額	△181	150
持分法適用会社に対する持分相当額	1,287	△779
その他の包括利益合計	△4,552	1,030
四半期包括利益	5,350	16,454
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,743	15,935
非支配株主に係る四半期包括利益	607	518

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	14,411	17,770
減価償却費	14,407	15,164
固定資産処分損益 (△は益)	401	165
のれん償却額	192	186
持分法による投資損益 (△は益)	3,865	△1,702
段階取得に係る差損益 (△は益)	△1,016	—
受取保険金	△564	△9
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△32	△505
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	33	371
受取利息及び受取配当金	△1,937	△2,020
支払利息	473	389
有価証券及び投資有価証券売却損益 (△は益)	△1,501	△1,279
有価証券及び投資有価証券評価損益 (△は益)	24	229
売上債権の増減額 (△は増加)	12,044	20,173
たな卸資産の増減額 (△は増加)	6,397	△1,150
仕入債務の増減額 (△は減少)	△12,465	△9,907
未払消費税等の増減額 (△は減少)	1,605	△1,187
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△378	△220
債務保証損失引当金の増減額 (△は減少)	92	—
その他	△5,045	△399
小計	31,007	36,067
利息及び配当金の受取額	1,917	2,003
持分法適用会社からの配当金の受取額	9,886	2,152
利息の支払額	△490	△384
法人税等の支払額	△4,221	△6,773
保険金の受取額	564	9
営業活動によるキャッシュ・フロー	38,663	33,075

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
固定資産の取得による支出	△21,677	△15,334
固定資産の売却による収入	157	766
投資有価証券の取得による支出	△1,083	△2,405
投資有価証券の売却による収入	2,740	2,171
貸付けによる支出	△208	△2,175
貸付金の回収による収入	320	223
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	2,408	—
その他	△4,568	208
投資活動によるキャッシュ・フロー	△21,911	△16,546
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△8,014	556
長期借入れによる収入	2,347	5,797
長期借入金の返済による支出	△4,625	△2,869
社債の発行による収入	—	20,000
自己株式の取得による支出	△3,732	△1
自己株式の売却による収入	—	0
配当金の支払額	△7,477	△7,279
非支配株主への配当金の支払額	△1,025	△1,058
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△841	△100
その他	△222	△239
財務活動によるキャッシュ・フロー	△23,592	14,805
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,850	△1,280
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△8,690	30,053
現金及び現金同等物の期首残高	80,379	70,043
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	258	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 71,947	※ 100,097

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

第1四半期連結会計期間より、(株)フドーテクノはフドー(株)を存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。

当第2四半期連結会計期間より、MGC MONTNEY HOLDINGS LTD.は解散・清算したため、連結の範囲から除外しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

	前連結会計年度 (2020年3月31日)		当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
Caribbean Gas Chemical Ltd.	29,075百万円	Caribbean Gas Chemical Ltd.	28,266百万円
従業員	64	従業員	53
その他 8社	2,306	その他 8社	2,204
計	31,446	計	30,523

(四半期連結損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
輸送費	10,953百万円	9,830百万円
荷役料・倉庫料	2,006	1,855
給与	9,271	9,491
賞与・賞与引当金繰入額	2,762	2,713
退職給付費用	457	698
法定福利費・厚生費	2,016	2,341

販売費及び一般管理費に含まれる研究開発費は前第2四半期連結累計期間8,783百万円、当第2四半期連結累計期間9,217百万円であり、上記各費目他に含まれております。

※2 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
固定資産売却益	－百万円	257百万円

当第2四半期連結累計期間の「固定資産売却益」は、土地の売却によるものであります。

※3 段階取得に係る差益の内容は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
段階取得に係る差益	1,016百万円	－百万円

前第2四半期連結累計期間の「段階取得に係る差益」は、持分法適用関連会社であった(株)東邦アーステックの株式を前第1四半期連結会計期間において追加取得し連結子会社としたことによるものであります。

※4 受取保険金の内容は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
受取保険金	564百万円	－百万円

前第2四半期連結累計期間の「受取保険金」は、発電設備の停止に係るものであります。

※5 事故関連損失の内容は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
事故関連損失	187百万円	—百万円
前第2四半期連結累計期間の「事故関連損失」は、製造設備の事故による有形固定資産及び棚卸資産廃棄損、復旧に係る費用等であります。		

※6 固定資産処分損の内容は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
固定資産処分損	174百万円	—百万円
前第2四半期連結累計期間の「固定資産処分損」は、機械装置の撤去に伴う損失であります。		

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
現金及び預金勘定	82,444百万円	111,471百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金等	△10,586	△11,383
有価証券中の取得日から3ヶ月以内に償還 期限の到来する短期投資	89	9
現金及び現金同等物	71,947	100,097

(株主資本等関係)

I 前第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年5月24日 取締役会	普通株式	7,477	35	2019年3月31日	2019年6月6日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年11月5日 取締役会	普通株式	7,384	35	2019年9月30日	2019年12月5日	利益剰余金

3. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、2019年5月13日の取締役会決議に基づき、自己株式2,700,000株の取得及び自己株式2,700,000株の消却を行いました。この結果、前第2四半期連結累計期間において自己株式が682百万円増加し、前第2四半期連結会計期間末において自己株式が20,612百万円となっております。

また、「連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より、(株)東邦アーステック及びAGELESS (THAILAND) CO., LTD. を連結の範囲に含めております。この連結の範囲の変動により、利益剰余金が1,246百万円増加しております。

II 当第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年5月26日 取締役会	普通株式	7,279	35	2020年3月31日	2020年6月8日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年11月2日 取締役会	普通株式	7,280	35	2020年9月30日	2020年12月4日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I. 前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	基礎化学品 事業部門	機能化学品 事業部門	その他の事業 (注)1	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額 (注)3
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	178,197	124,800	371	—	303,369
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	3,277	263	67	△3,608	—
計	181,475	125,064	439	△3,608	303,369
セグメント利益又は損失 (△) (経常利益又は経常損失 (△))	951	11,762	△23	△999	11,690

(注) 1. 「その他の事業」には、報告セグメントに属していない上場関連会社、不動産事業等を含んでおります。

2. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失の調整額△999百万円は、セグメント間取引消去△35百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△964百万円であります。

全社費用は、報告セグメントに配分していない一般管理費、金融収支、雑損益等であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「基礎化学品事業部門」セグメントにおいて、(株)東邦アーステックの株式を追加取得し連結子会社としたことにより、1,849百万円のものれんが発生しております。

(重要な負のものれん発生益)

該当事項はありません。

II. 当第2四半期連結累計期間（自 2020年4月1日 至 2020年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	基礎化学品 事業部門	機能化学品 事業部門	その他の事業 (注)1	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額 (注)3
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	137,628	123,806	5,202	—	266,637
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	3,592	262	620	△4,474	—
計	141,220	124,069	5,822	△4,474	266,637
セグメント利益又は損失 (△) (経常利益又は経常損失 (△))	1,570	15,915	△539	△404	16,541

(注) 1. 「その他の事業」には、報告セグメントに属していない上場関連会社、不動産事業等を含んでおります。

2. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失の調整額△404百万円は、セグメント間取引消去61百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△466百万円であります。

全社費用は、報告セグメントに配分していない一般管理費、金融収支、雑損益等であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社はグループビジョン『社会と分かち合える価値の創造』の下、中期経営計画『MGC Advance2020』で5つの施策を掲げ、成長戦略を推進しております。とりわけ、『新規事業の創出と育成』、『最適な事業ポートフォリオに向けた投資戦略の実行』、『グループ一体となった経営の推進』といった施策をこれまで以上に迅速・強力で推進していくために、第1四半期連結会計期間より組織改定を行っております。この改定に伴い、報告セグメントを従来の「天然ガス系化学品事業」、「芳香族化学品事業」、「機能化学品事業」及び「特殊機能材事業」の4区分から、「基礎化学品事業部門」及び「機能化学品事業部門」の2区分に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、組織改定後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	38円45銭	68円54銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	8,147	14,255
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半 期純利益金額(百万円)	8,147	14,255
普通株式の期中平均株式数(千株)	211,908	207,994

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

### 配当

2020年11月2日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額……………7,280百万円

(ロ) 1株当たりの金額……………35円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日……………2020年12月4日

(注) 2020年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

三菱瓦斯化学株式会社  
取締役会 御中

東陽監査法人

東京事務所

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 小林 弥 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 井澤 浩昭 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 川久保 孝之 印

#### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている三菱瓦斯化学株式会社の2020年4月1日から2021年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、三菱瓦斯化学株式会社及び連結子会社の2020年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

#### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。